

ほ育・育成牛管理技術の向上 推進事項 哺育育成牛管理改善

(課題番号12)

- ◆活動年次：令和5年度
- ◆対象：ほ育育成センター及び酪農家（3戸）
- ◆目標事項：ほ育・育成管理改善農業者戸数（0→2戸）
- ◆到達度合：改善農業者戸数（0→2戸）100%

1 課題の背景

令和3年度からほ育育成センターが稼働し、普及センターは子牛の免疫向上、育成牛の発育向上を目指して支援してきた。令和5年度は①ほ育育成センター、②預託農家、③預託・改善指向農家に対してそれぞれの課題に取り組むこととした。

表1 対象と活動のねらい

対象	ねらい
①哺育育成センター（1戸）	・管理技術向上により一層の発育向上を目指す。 ・預託効果を可視化し預託拡大を図る。
②預託農家（2戸）	・預託前後の適切な育成管理により繁殖・泌乳成績向上を図る。
③預託指向・哺育育成改善意向農家（1戸）	・哺育育成センター預託効果のPRによる預託への誘導 ・初乳給与等管理改善による子牛免疫向上

2 活動の経過

①ほ育育成センターへの支援

◇本所畜産担当と共に哺育育成センターの定期巡回を行い、飼養実態や管理状況を確認した。その後、気づいた点、改善事項を整理し、代表者従業員へ提案・周知した。



写真1 巡回で管理確認



写真2 代表への報告

②預託農家への支援

◇育成牛を含めた円滑な飼料給与のため、粗飼料貯蔵量調査を実施した（計7回）。
◇ほ育育成センター預託前及び預託後の牛状態をほ育育成センター職員と確認した。



写真3 預託後の牛確認



写真4 預託前子牛確認

③預託拡大への取り組み

◇ほ育育成センター利用以前からの繁殖・泌乳成績を分析、可視化した。預託前後の変化を比較することで、預託効果を示し、ほ育育成センターのPRを図った。

3 活動の成果

ほ育育成センター管理向上と預託拡大

◇定期巡回とその後の提案で管理向上！

子牛の感染症予防のため1頭おきにハッチに入れるなどの工夫がされた。

◇預託効果が確認できた！

子牛を預託することにより、酪農家は省力化、発育向上のメリットが得られる。しかし、子牛が育成期間を経て預託農家に戻ってからの生産性が酪農経営においては重要となることから、預託農家1戸の初産牛成績を調査し、預託前後で比較した。その結果、初産牛の初回授精日数は87日→68日(図1)、授精回数3.3回→2.1回(図2)となり、初産から2産目にかけての予定分娩間隔も短縮し繁殖成績が向上していることが分かった(図3)。生乳生産では、初産牛の乳量が増加し、酪農家の経済メリットも生まれた(図4)。

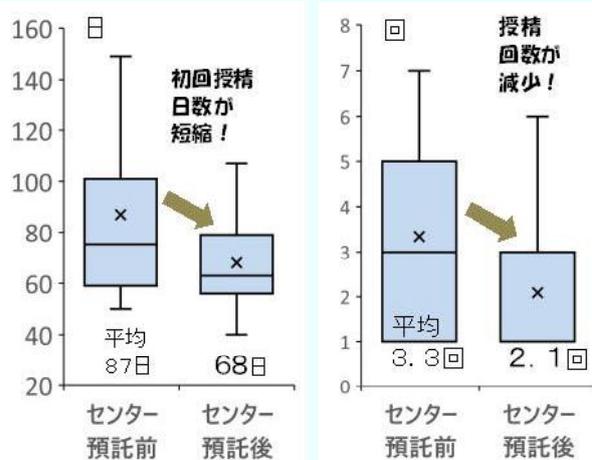


図1 初回授精日数

図2 授精回数

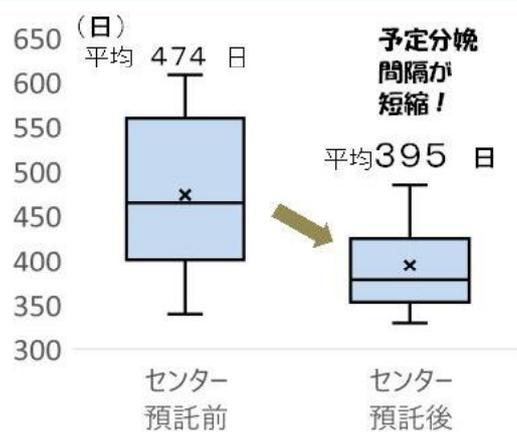


図3 初産～2産までの予定分娩間隔

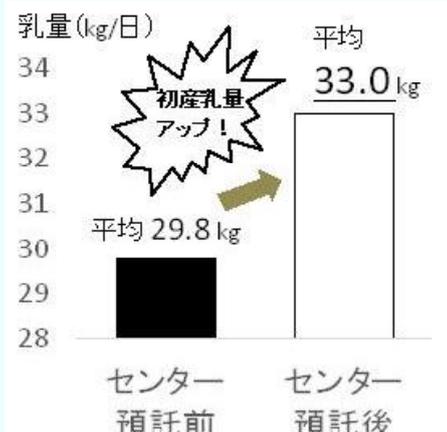


図4 初産牛乳量

◇新規預託につながった！

これらの結果を預託指向農家にも提供した結果、預託拡大の動きにつながり、近隣町の大規模酪農家が新たに預託を開始した。

預託農家の管理向上

◇初乳の適切な給与、子牛管理徹底

管内酪農家は預託前後の牛の確認により、初乳の適切な給与が継続して行われた。

◇適切な飼料給与計画

粗飼料貯蔵量調査に基づき、適切な飼料給与計画が策定され、在庫日数推定を参考に給与変更が行われた。

4 残された問題点

- ほ育育成センターの預託拡大と頭数に応じた管理体系による運営の安定化
- ほ育育成改善意向農家の初乳給与等管理改善による子牛免疫向上

5 今後の対応

- ほ育育成センターの運営の安定化に向けた継続支援
- 改善意向農家の初乳糖度測定と哺育管理提案